

お知らせ

直売所等で加工食品（ご飯類、菓子、漬物等）を販売する方へ ～新しい食品表示について～

平成27年4月1日に「食品表示法」が施行され、新しい食品表示制度が始まりました。加工食品は、平成32年3月31日までの移行期間内に、容器・包装を新基準に則したものに更新しておく必要があります。なお、移行期間中は旧基準に基づく表示は可能ですが、新基準と旧基準が混在した表示は認められません。



新基準では、アレルギーや添加物の表示方法、製造所固有記号のルール等の変更があるほか、栄養成分表示が義務化されました。表示義務のある直売所やスーパー等に卸して販売している場合は、表示義務のない農家や女性グループ等の小規模事業者であっても、商品の所有権が卸し先に移るため、表示が必要です。一方、手数料を支払って売り場所を借りて販売する（所有権が移っていない）場合は省略できます。

牛糞堆肥に含まれる

クロピラリドにご注意を！

クロピラリドは、米国などで牧草や穀類の生産に使われている除草剤の成分です。クロピラリドが残留した輸入飼料が家畜に給与された場合、そのふん尿を原料とし製造された堆肥は、園芸作物やマメ科牧草に生育障害を起こす可能性がありますので、堆肥や培土を購入する時は、原材料の情報を確認してください。

被害を受けやすいトマトやナス、マメ科作物やシュンギク、輪ギクなどを施設やポットで栽培する場合は、①牛由来堆肥の投入量の低減、②施用時に土壌とよく混和するなどして使用してください。

さやえんどうを使った「生物検定」により、堆肥中にクロピラリドが含まれるか2週間程度で確認することができますので、検定方法については当室担当までお問い合わせください。

最近目につく強害雑草(アレチウリ)

アレチウリは近年空き地の至る所で見られるようになったキュウリにそっくりのツル性の帰化植物です。三戸管内では7月頃から目につくようになり、8月には地面やガードレール、りんごの木なども覆ってしまっています。瓜は成りませんが、触ると痛い棘の付いた金平糖のような果実を沢山つけます。一株当たりの種子は約2万5千粒と多く、地面にこぼれた種子を野鳥が食べて伝搬します。対策は、株を見つけたら早めに抜き取り、種子を残さないことに尽きます。



ネット支柱、ハウスの骨組みに絡まるアレチウリ
(H29.8.16 三戸町泉山)



三八地域 GAP 相談窓口を設置しました



2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会で提供する食材の調達や当該大会を契機とした、国内外への販路の維持・拡大に向けた取組の支援ために「三八地域 GAP 相談窓口」を設置しました。グローバル GAP、JGAP 等について興味がある方はぜひ GAP 担当までご相談ください。

みどりの通信

平成29年度第2号

〈三八地域県民局地域農林水産部〉

・農業普及振興室
〒039-1101 八戸市大字尻内町字鴨田7
TEL: 0178-27-5111 (代表)
TEL: 0178-27-4444 (直通)
FAX: 0178-27-3323
・農業普及振興室分室
〒039-0134 三戸町同心町字同心町平54-7
TEL: 0179-23-3264
FAX: 0179-23-3274



青森県ながいも戦略推進協議会

「三八地域プロジェクトチーム」が始動しました。

青森県では、これまでのながいも振興に関わる取組の成果と今後の課題を整理し、「生産力の向上」、「担い手の育成」、「販売・流通の強化」を柱とする、平成29年から38年までの10年間を実施期間とした「あおりながいも産地力強化戦略（以下、戦略）」を策定しました。

戦略の実行組織「青森ながいも戦略推進会議」のもと、三八地域でも、管内市町村、農業委員会、農協、県民局で組織したプロジェクトチームの活動が始まっており、活動の中から担い手の育成について紹介します。

県では担い手育成のため、高度な技術習得の場として、各地域から推薦された研修生が学ぶ「ながいもプロフェッショナル養成所」を開設しました。当地域からは、南部町の金澤祥光氏、金澤志成氏兄弟、五戸町の川村親徳氏、森田格勝氏、新郷村の長根透氏の5名が参加し、研鑽に励んでいます。

第1回研修は、8月24～25日にかけて行われ、先進生産者の取組や、ながいもの生理生態、病害虫、緑肥の効果等を学んだほか、ドローンの実演見学やアシストスーツの体験を行いました。

第2回の研修は、9月3日～6日の日程で北海道内の施設等を視察しました。雪印種苗株式会社北海道研究農場で緑肥の効果について学んだほか、ヤンマーアグリソリューションセンターで農機の整備、流通を見学しました。また、帯広かわにし農協で各種認証取得の取組について学び、ながいもを栽培するほ場2ヶ所で研修しました。

当地域では、47名からなる「ながいも若手研究会」を組織しており、今後3か年にわたる緑肥とながいもの輪作体系の実証をとおして、後継者育成に取り組んでいく予定です。



8月24日五戸町ふれあいセンターにて
アシストスーツを体験する研修生



9月4日雪印種苗北海道研究農場にて
緑肥の輪作による病虫害抑制効果を学ぶ

管内の出来事



ジュノハート接ぎ木苗肥培管理講習会を開催！



園主の説明を熱心に聞く受講者の皆さん

当室では、県民局重点事業の一環として、平成 29 年 6 月 14 日、ジュノハートを試験栽培している南部町上名久井の生産者ほ場において、苗木の肥培管理講習会を開催しました。講習会には、おうとう「ジュノハート」普及促進研究会会員、農協職員、町職員など関係者合わせて 38 名が参加し、接ぎ木苗の追肥や冬期の管理についての講義を受けた後、園内を巡回して、園主からジュノハートの品種特性や、栽培方法などを学びました。

参加者は、3月に開催した接ぎ木講習会に比べ倍増しており、徐々にジュノハートの栽培面積が拡大しています。

今後は大玉果の生産に繋がるよう苗木の管理についても支援していきます。

H29 年度カンパニュラ検討会開催

三八地域では、キクの輪作として春先の収入源となるカンパニュラ栽培が拡大しており、今年度 JA 八戸の花き部会に「カンパニュラ専門部」が発足しました。同専門部が 6 月 29 日に開催した検討会では、今年度の栽培を振り返り、栽培上の問題と対策について情報交換がおこなわれ、次年度以降の栽培に向け、当室から障害花回避のため適正な施肥を行うこと、生育に合わせた摘心を行うことを確認しました。

当地域のカンパニュラは、湿式縦箱輸送による日持ちの良さを強みとしており、市場からも高い評価を得ています。また、事業を活用し宣伝パンフレットを作成し販売力強化も図っています。当室では、引き続き高品質生産に向けた支援を続けていきます。



湿式輸送用の縦箱

すももの高品質安定生産の推進



有望品種「サマーエンジェル」

本県のすもも（プラム）の出荷量は全国第 5 位（H28）で、三八管内の栽培面積は県全体の約 7 割を占めています。JA 八戸果樹総合部会プラム・プルーン専門部では、平成 27 年には県内で初めて販売額 1 億円を達成し、さらなる産地拡大に向け、有望品種「サマーエンジェル」等の生産拡大を進めています。

農業普及振興室では、大玉果の安定生産を推進するため、今年度から重点計画にとりあげ、有望品種の収穫適期把握、栽培指標やシンクイムシ類防除法の確立などについて支援を行っています。

農業普及振興室ホームページはこちら↓

<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/sa-nosui/>



アスパラ立茎栽培作付推進

三八地域県民局では、昨年度から県民局重点事業により八戸平原地域でのアスパラガスの産地化を進めています。今年度は八戸市と階上町の 2 ヶ所に実証ほを設置し、生育・収穫状況等について調査しています。6 月には、階上町の実証ほにおいてかん水の実演会を実施し、生産者や関係機関の方々にアスパラガス栽培の PR を行いました。

また、7 月には「栽培研究会」が発足し、技術の確立や作付拡大に向け活動しています。



アスパラかん水実演会（階上町）

ViC・ウーマンと若手女性農業者の交流会開催

平成 29 年 7 月 14 日、「階上町の ViC・ウーマンと若手女性農業者の交流会」が土橋美智子さんの自宅で開催され、階上町の若手女性農業者 3 名、ViC・ウーマン 4 名が参加しました。

交流会では、土橋さんの庭に植えられているレモンバーム等のハーブを摘み取った後、ハーブティーにして、ViC・ウーマン手作りのクッキーや「のぎもち」を一緒にいただきながら、お互いの経験談や農業への想いを披露し、親睦を深めました。

今後は、それぞれの家族を交えて冬場に交流会を開催する予定です。



談笑する参加者

若手農業者の活動紹介



八戸農好会の活動～ほ場巡回実施！～



ほ場巡回の様子（階上町）

「八戸農好会」は、八戸市、五戸町、階上町、新郷村の 20～30 代の若手農業者を中心とした組織です。

平成 29 年度は、「みんなのほ場を見てみたい」という会員が自ら計画を立てて、7 月 26 日にはほ場巡回を実施しました。

階上町では、わさび栽培を視察し、同町特産の階上そばを味わいました。このほか、八戸市、五戸町のながいも等のほ場を視察し、活発に情報交換することができました。

八戸農好会新規会員
募集中！

「農業」に興味ありませんか？

八戸農好会では、新規会員を募集しています。野菜や果樹などの栽培技術や知識を深めるための会員ほ場巡回や県内視察、親睦を深めるための交流会などを実施しています。

農業に興味を持っている人なら、誰でも加入できますので、当室担当までご連絡ください！



勉強会の様子